

## 平成28年度 第2回中野市環境審議会 会議録

### 1 日 時

平成28年11月4日（金）午後1時30分から午後3時5分まで

### 2 場 所

中野市役所32号会議室

### 3 出席者

#### 【審議会委員】

中村秀人会長、望月隆副会長、渡辺五男委員、松本章委員、今井陽二委員、鈴木富夫委員、竹内義明委員、丸山久治委員、高橋秀子委員、中村幹夫委員、山岸恒夫委員、勝野芳久委員、金井哲雄委員、宮沢和三委員

#### 【事務局（くらしと文化部環境課）】

佐々木くらしと文化部長、久保環境課長、小林環境課長補佐、宮澤衛生係長、環境係宮崎主査、衛生係竹内主事、環境係坂本主事補

#### 【環境基本計画策定支援委託業者】

株式会社総合環境研究所 上原

### 4 傍聴者

なし

### 5 内 容

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 議 事

#### ① 環境意識調査（アンケート）の結果について

【会長】 (1) 環境意識調査の結果について事務局より説明をお願いします。

【主査】 環境意識調査（アンケート）の結果についてですが、資料1をお願いします。本調査の目的ですが、第2次中野市環境基本計画の策定にあたり、市民の環境に関する考え方などを把握し計画策定の参考にするため実施しました。調査方法ですが、まず市民アンケートについては、政策サイドで行った市民満足度調査などと合同で行いました。対象は18歳以上の市民で調査方法は文書配達員により配布し、郵送で回収、実施時期は7月、実施数は3,000名で回収数は1,025名で回収率は34.2%でございます。つづいて、小中学生アンケートについてですが、対象は小学5年生と中学2年生で調査方法は各学校に配布・回収を依頼、実施時期は7月で実施数は小学5年生が252名、中学2年生が244名、計496名、数が半端になっているのは複数クラスがある学校は4クラスの内の2クラスなどといったクラス単位で行ったためです。回収数は496名で回収率は100%です。

つづいて、アンケートの結果ですが、2ページをご覧ください、また、参考資料としてアンケート用紙も配布してございますので、そちらもあわせてご覧いただきたいと思います。

まず、環境問題への関心についてですが、「とても関心がある」、「やや関心がある」を合わせると約80%の人が環境問題に関心があると答えています。これを性別でみると男女ともほぼ80%の人が関心があると答えていますが、「とても関心がある」では男性35.2%に対し、女性が27.1%と開きがあり、男性の関心の方がより高いのではないかとと言えます。

また、年齢別でみると60代では90%近い人が関心があると回答があった一方、18～29歳では約65%と低く、若年層の環境問題への関心の低さが言えます。

つづきまして4ページですが、関心を持っている環境問題については、「地球温暖化」が、6割ととび抜けて高く、次いで地球温暖化と関係があるといわれている「異常気象」次に「原発事故や放射性物質による環境汚染」という結果になりました。

つづきまして、5ページの環境問題を知る手段ですが、テレビ・ラジオ・新聞がとびぬけて高い結果となっております。

つづきまして、6ページをお願いします。中野市の環境についてどう思うか項目ごとに調査した結果、「満足」「やや満足」をあわせると、「空気のきれいさ」が57.8%と最も高く、次いで「山や森林などの自然の緑の美しさ」、「自然とのふれあいの機会の多さ」となっています。また逆に「やや不満」「不満」をみると「公園や広場などの施設の充実」が31.2%、次いで、ごみや犬のフンなどがないといった「まちの清潔さ」、騒音や悪臭がないことといった「生活環境の快適さ」となっています。自然環境については満足度が高く、また生活環境では満足度が低いと言える結果となりました。また、中野市の環境全体としては約5割が「普通」であるという結果となりました。

つづきまして7ページ、環境をよくしていくために市が優先して進めるべき取り組みについてですが、「ごみの不法投棄・ポイ捨て対策」が38.7%と最も高く、次いで「ごみの減量・リサイクルの推進」「まちの美化や景観の保全」「地球温暖化防止対策」となり、特にごみへの対策が求められる結果となりました。

つづきまして8ページ、将来どのようなまちになってほしいかについてですが、「美しい景観や景色があるまち」が40.3%ととび抜けて高く、次いで「人が集まり、にぎやかなまち」「自然が豊かなまち」「花や緑があふれるまち」といった結果となりました。

つづきまして9ページ、自宅でどのような省エネ設備・機器などを導入しているかについて、「導入している」ではLED照明が突出しており、次いで、かなり下がって「自然冷媒ヒートポンプ給湯器」「生ごみ処理機器」となっており、また、「導入している」「導入する予定がある」「いつかは導入したい」をあわせると「LED照明」が84.8%、次いで「クリーンエネルギー自動車」「生ごみ処理機器」といった結果となりました。これに対し「導入するつもりはない又はできない」では「薪・ペレットストーブ」が67.9%、次いで「ガスコージェネレーションシステム」などであり、全体として、「LED照明」「クリーンエネルギー

自動車」以外は、「導入するつもりはない又はできない」が50%前後かそれ以上を占める結果となりました。

つづきまして10ページ、日常生活における環境にやさしい取り組みについてですが、「いつも実行」では「道路や川などに、ごみをポイ捨てしない」が93.1%と最も多く、次いで「ごみ・資源物をきちんと分別している」「ものを大切にしておいて、長く使うようにしている」「食事は食べ残しをしないようにしている」などの取組が上位を占めるなか、これに対し「あまりしていない」のは「マイカー利用はさげ、できるだけ公共交通機関を利用している」「清掃活動や美化活動に参加・協力している」「生ごみの堆肥化や減量を行っている」「車を運転する際は、エコドライブをしている」などであり、全体として、「マイカー利用はさげ、できるだけ公共交通機関を利用している」以外は、「いつも実行」「時々実行」あわせて過半を占めています。

つづきまして、小中学生アンケートについてですが、関心のある環境問題については、「地球温暖化」がとび抜けて多く、次いで「野生動植物の減少や絶滅」「海や川のよごれ」が続く結果となりました。

つづきまして身のまわりの環境については「とてもそう思う」「少しそう思う」をあわせると「自然や緑が豊か」が90.1%、次いで「風景がきれい」などが続いています。また逆に、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」をあわせると「ポイ捨てされたごみがなくきれい」が37.7%となっています。

つづきまして12ページ、環境をより良くするためにすべきことについては、「ごみのポイ捨てをなくす」がとび抜けて多く、次いで「きれいな空気や水を守る」「動物や植物を守る」が続いています。

つづきまして、将来こうなっていきたいと思う中野市のイメージについてですが、「空気のきれいなまち」が約4割と最も多く、次いで「自然が豊かなまち」「花や緑があふれるまち」などが続く結果となりました。

つづきまして、ふだん学校や家で行っている環境にやさしい取り組みについてですが、「いつもしている」取り組みでは「ごみのポイ捨てをしない」が8割を超えており、「いつもしている」と「時々している」の合計では「ものを大切にしておいて、長く使う」「食べ残しをしない」が9割を、「ごみ・資源物をきちんと分別する」「ごみのポイ捨てをしない」「テレビや楽器などの音に気をつける」が8割を超えています。また逆に、「環境問題について話し合う」は、「いつもしている」と「時々している」の合計でも3割に満たない結果でした。

つづきまして14ページ、環境問題の情報をどのように知るかについては「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで「新聞」「学校」などが続く結果となりました。環境に対する意見などについてはごみ・ポイ捨て関係が多い結果となりました。

つづきまして15ページ以降は市民と小中学生アンケートの比較ということで、市民と小中学生で設問が異なるところもございますが、同様のところは、先程説明したものを市民と小中学生で比較していますので、また、ご覧いただきたいと

思います。

最後に全体を通して、空気がきれいや自然が美しいなど自然環境は満足度が高いなか、まちの清潔さや快適などの生活環境は満足度が低い、また身近な生活環境に関心があり、簡易な環境にやさしい取り組みについては多くの方が実践済であるといえるのではないかと思います。また、このアンケート結果については、新しい計画にも掲載する予定でいますのでよろしくお願いします。アンケート結果の報告については以上です。

【会長】 市民と小中学生に分かれたアンケート調査の結果について委員の皆さんのご質問、ご意見をお願いします。

【委員】 4ページの関心を持っている環境問題についてのアンケート結果と、7ページの市が優先して進めるべき取り組みとの関連が重要だと思うが、結果ではばらばらになっている。設問に関連がついていないのではないか。地球温暖化では60.8%が27.0%、ごみの不法投棄は22.2%が38.7%、ごみの減量・リサイクルは24.0%が30.8%、4ページで3番目に多い放射性物質は30.8%が7.3%となっている。アンケートの設問に問題があるのではないかと思う。これらの分析が重要になるが、分析のしようがない感じもする。

特に放射性物質による環境汚染問題・対策について、豊田地区から飯山市にかけて産廃銀座と呼ばれ、産業廃棄物処理場が林立し全国で最悪の場所と言われている。そのような場所で今度は、東日本大震災の廃棄物が大量に持ち込まれてきている。その中には高レベルの放射性廃棄物は含まれていないが、低レベルのものはかなり入ってきているのではないかとされている。行政ではほとんどチェックされておらず、業者がどのようなチェックをしているかというところと大型トラックの外からガイガーカウンターを向けているだけです。もし放射性廃棄物が大量に入り込んだという事実やその風評が流れてしまうと、中野市の農業・果樹など壊滅的な打撃を受けることになると思う。そのような重要な問題が最優先に出ないのは知らされていない、市民は知らない、わからない、何が起きているのか理解していない。市民が悪いわけではなく、知らせない側に問題があると思う。そのような問題がある以上、起きてから想定外のことでしたでは遅いので、十分起こりえることなので、啓発を含めた、計画であってほしい。このままいくと、通り一遍のものがあっさりできて何の問題もないと思うが、肝心要の大変起こる可能性の高い、一度起きれば中野市の産業の中核である農業・果樹が壊滅してしまうかもしれない重大な問題に対して、市民に危険性を知らせ、市が先頭に立ってチェック体制をつくる必要があるのではないか。産業廃棄物に対し環境課はタッチできないという話もあったが、環境審議会は市の行政の縦割りとは関係ないので、重要な問題として意見を述べた。

【課長】 ご意見をしっかり受け止めさせていただきます。

【会長】 貴重な意見をありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【委員】 アンケートの回収率が小中学生は100%、それに対して市民は34%。どうやっ

たら回収率を上げ、よりアンケートの結果を踏まえ、今後行政に生かせるのか。7割の人は文書が届いていても回答していただけていない。今までどおりの文書でのやり方ではなく、ネットを活用するなど考えを切り替え、より多くの意見を聞いてほしい。前回やったからそれと同じやり方ではなく、今後やり方を検討してほしい。せっかく回答していただいているのでリンクしていけるようにし、今後具体的な検討をしていくと思うが、誰にも見えるような形にしてほしい。特に放射能など知らない人も多いと思う。広報等に出ていると思うが、「やっています」でなく、もっと人の目に入るような形にしてほしい。アンケートをする場合、対象を無作為に選定するだけではなく、色々なイベント等でも実施する等してより多くの意見を集め、皆さんが思っていることに近いアンケート結果になればよいと思っています。ご検討をよろしくお願いします。

【課長】 アンケート調査の形態については色々あるが、ご意見を参考にさせていただきたい。

【委員】 そもそもこのアンケートは何のために実施し、どのように生かされるのかイメージできない。このアンケート結果を受けて、どうしようとしているのか。

【主査】 アンケートを実施することにより、市民の環境に関する考え方等を把握し、計画の策定、特に施策に生かすことができるようにしていきたい。

【委員】 環境がこうあるべきだというものがあるが先にひとつあるのではないかと。市民の皆さんの今の意識はどうあるかは別にして、中野市や日本、地球の環境がこうあるべきだというものがあり、それを実現するためには、このような施策が必要だと思われるが、今の市民の皆さんの意識からいくと、ここら辺を意識改革しないと目指すところに行けないのではないかと、ここをやらないといけない、というための参考にすることを考えていく必要がある。市民の皆様がこう思っているからどうなのか、それを実現するまちづくりを10年かけてしていくのか。そうではなく、こうあるべきというものがあり、そこにどうやって市民全体一丸となって目指していくのかというための参考にしたいほうが良いのではないかと。そのようなことを頭に置きながら、計画の策定に生かしてほしい。

【課長】 環境計画のめざす将来像として、どのようなものが考えられるかということがあがるが、イメージ的には市の総合計画の将来都市像にある「緑豊かなふるさと」が基本的な路線になるのではないかと考えている。「緑豊かなふるさと」をつくっていくことが、環境基本計画のベースになると思っている。

アンケート回収率が市民34%で、小中学生は100%となっており、将来的にこの環境基本計画を実施していくにあたり、小中学生の行動・学習が有効に結びついていくのではないかと考えている。施策体系への反映等、アンケートの中から結び付けていければと考えている。

【委員】 4ページには「野生動植物の減少や絶滅」とあるが、農業者からすると有害鳥獣が増えている。そちらのほうが心配であり、計画に入れてほしい。アンケートにはその設問がないので答えようがない。計画にはそのあたりも考えて入れてほ

しい。

【主査】 有害鳥獣の問題については、計画策定の中で検討し反映できるところはしていきたいと思う。

② 第2次中野市環境基本計画策定の構成及び施策体系について

【会長】 (2) 第2次中野市環境基本計画策定の構成及び施策体系について、事務局より説明をお願いします。

【主査】 環境基本計画の構成と施策体系について説明させていただきますが、3点について委員のみなさまの意見などを賜りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

まず、1点目として、環境基本計画の構成案についてですが、資料2の「第2次中野市環境基本計画の構成イメージ案」をお願いします。

資料の左側が現行計画の構成で右側が第2次の構成案でございます。

大きく構成を変えることはありませんが、新計画につきましては、基本編、実践編、資料編といった構成でいきたいと考えています。まず、基本編では、第1章として、計画策定の背景や目的などといった基本的事項を、第2章では、現行の計画では資料として掲載していた市の概要や環境の現況などといった中野市の環境の状況を、第3章では、めざす環境像や基本目標などの計画のめざすものといったぐあいで考えています。そして、実践編で第4章では具体的な取り組みということで、目標に対する各取組方針や市民・事業者・市の取組内容、環境面での指標などを掲載していき、第5章では計画の推進体制と進行管理の方法を、そして、資料編では条例や審議会における諮問・答申、審議会委員さん方の名簿、策定経過などを掲載する予定で考えています。構成については以上です。

つづきまして、「施策の体系案」計画の骨格部分について説明したいと思いますが、その前に現状と課題について少し触れたいと思いますが、参考資料で配布してある「現状と課題について」をお願いします。市の環境の現状と課題についての概略を各項目ごとにまとめました。まず、環境教育・協働推進の関係で現状ですが、「小中学校では緑化活動の実施等を行うなど様々な環境学習が進められている」「市でも自然観察会などのイベントの実施、また、環境祭で事業者などによる環境に関する出展を行い、環境保全・環境問題について周知啓発している」、課題・取り組みの方向性としては「現在、地球規模や身近な環境でも様々な環境問題が生じているため、より一層環境問題について知識を深める必要がある」ことや「より良い環境を維持するため、市民・事業者・市が協働した環境保全活動などを推進することが必要である」ことなどがあげられます。循環型社会環境の関係で現状ですが、下の表で掲載していますが、「ごみの排出量は、ここ数年、概ね横ばい傾向である」「不法投棄は減少傾向であるが、未だに市内各地でみられる」「環境公害防止指導員、衛生自治会、市などでパトロールを行っている」などがあげられ、課題・取り組みの方向性としては、「さらなるごみの減

量化・資源化などの取り組みの推進」「引き続いて不法投棄防止対策」などがあげられます。生活環境の関係で現状ですが、「重大な公害はないものの、年間40～60件程公害苦情が市に寄せられている」「市内各所において市民・団体などで緑化活動が行われている」「水質検査・騒音測定・空間放射線量など監視測定を実施している」ことなどがあげられ、課題・取り組みの方向性としては、「日常生活や身近な事業活動に対する苦情、近隣とのトラブルになる恐れがある苦情が増えているため、発生源への適切な対処、有効な対策が求められる」「緑豊かなまちにするために、さらなる緑化活動の推進」「公害防止のため、引き続き、各種監視測定の実施」などがあげられます。自然環境の関係では現状として「身近な里山や河川などにアレチウリなどの外来種が浸食してきている」「森林の手入れが行われず放置されたことにより森林の多面的機能が低下している」「農業従事者の高齢化、後継者不足などにより遊休荒廃農地が増加している」ことなどがあげられ、課題・取り組みの方向性としては、「外来種の防止対策」「森林資源の維持増進・里山の整備拡大の推進」「農地の持つ多面的機能の維持・発揮を図りながら農業生産に必要な基盤を維持することが求められる」などがあげられます。地球環境の関係で現状ですが「人間活動による温室効果ガスの排出により、地球温暖化が進行し、気候変動などに影響が出てきている」また、先程のアンケートの結果からもわかるように「省エネ・省資源の取り組みが浸透してきている」「市内各所においても再生可能エネルギーが普及してきている」課題・取り組みの方向性としては「地球温暖化を防止するためには一人ひとりが環境に配慮した取り組みが必要」「再生可能エネルギーの導入、低炭素型の交通環境の推進、ライフスタイルの見直し」などがあげられます。もう少し詳細な現況などは先月皆様方に送付しています中野市環境白書にも掲載してございます。なお、今回は概略として説明させていただきましたが、説明した以外にも色々な課題などあると思います。実際の計画ではもう少し詳細に掲載できればと思います。それで「施策の体系案」へ移りますが、資料3をお願いします。現行とA案B案とありますが、一応A案で進めていきたいと考えておりますが、それぞれ比較しながら、また、環境像・目標について参考例もあわせて見てもらえればと思います。それで、意見聴取3点のなかの2点目ですが、めざす環境像についてです。環境像とは計画を実行することで将来こうしていきたいという姿を表したもので、現行では「豊かなふるさとを共につくるまち なかの」を環境像として表しています。この環境像の理念・考え方というのは、中野市の恵まれた自然環境を守り、将来に継承していく、さらに、環境を良くしていくための変化をめざすことを決意表明し自ら行動をはじめるということです。それで、この環境像についてですが3つ案としてあげていますが、今年度からスタートしている第2次の総合計画における将来都市像においても前計画の意思を引き継ぎ「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を改めて将来都市像に掲げていることや現計画期間も含め合併後10年余りしか経過していないことなどからも現計画の環境像をそのまま引き継

ぐ案、また、A案では現環境像をそのまま引き継ぎながらも総合計画の緑豊かなとふるさととあわせて、現計画の「豊かな」の前に「緑」をいれる案、それと、B案では少しいメージを変えて将来へ豊かな環境を引き継ぐことをストレートにいった感じで「つなげよう 中野の豊かなふるさとを 未来へ」といった案です。また後ほど委員の皆さまから意見いただければと思います。環境像については以上です。

つづきまして、3点目、施策体系の関係ですが、現行計画については、環境学習関係などについての目標として『「みんなの参加」で中野市の環境をつくりまします』、ごみや資源などについての目標として『「もったいない」の心を大切にします』、生活環境や公害対策関係などについての目標として『「安心」してらせる環境をつくりまします』、自然環境関係についての目標として『「ふるさと」の豊かな自然を大切にします』、地球環境関係などについての目標として『「地球温暖化」を防ぎまします』、この5つの目標に対する取組方針、取組項目が図のように掲げております。それでA案ですが、文言は変えてつくってありますが、基本的には現行計画の体系をベースにしつつ、少しコンパクトにしてつくっています。まず、1つ目の目標、「みんなで学び、行動するまち」かっこで「にします」とありますが、現行計画のように柔らかい表現を用いた方がよいといった場合は、語尾をしますとしたいと考えています。ここでは、環境教育の推進や市民・事業者・市が協働した環境保全活動の推進などをまとめたいと考えています。2つ目の目標「ごみを減らし資源を大切にすまちにします」ここでは、ごみの減量化や資源化、また食べられるのに捨ててしまうということここ最近耳にする食品ロス、不法投棄関係など、ごみ関係についてまとめたいと考えています。3つ目の目標「安全・安心で快適にくらせるまちにします」ここでは、公害防止対策関係、景観保全関係、水環境保全関係など主に生活環境関係をまとめたいと考えています。4つ目の目標として「豊かな自然を守り育てるまちにします」ここでは農地・森林保全関係、外来種対策関係など主に自然環境関係などをまとめたいと考えています。5つ目の目標として「地球環境にやさしいまちにします」ここでは省エネルギー・省資源の推進、再生可能エネルギー導入の推進関係など地球温暖化防止、地球環境関係をまとめたいと考えています。またB案ではA案とさほど体系は変わりませんが、また違った表現でシンプルなイメージでつくっています。施策体系については以上ですが、これだけでは少しいメージしにくいところもあるため、参考資料で県内他市の環境基本計画の体系をまとめたものを配布してございますので参考にいただければと思います。

構成、環境像、施策の体系について、様々な意見があると思うので、それらの意見の反映や課内での検討、他部署への照会等を行い、市民、事業者、市の主体別の取り組み内容の策定を進めていきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。説明については以上です。

【会長】

第2次中野市環境基本計画策定の構成、環境像、施策の体系について説明があ

りました。3点あるので、1点目として資料2にある環境基本計画の構成案について、意見・質問をお願いします。

【委員】 構成案の中で、第5章計画推進と進行管理において、PDCAが回る仕組みをぜひ入れてほしい。資料編では各種測定データの「見える化」をしてほしい。市のホームページに載っているデータは単年のもので経時的にグラフ化されたものがない。特に放射能関係は原発事故があった頃は測定頻度が密だが、現在は月1回くらいの測定になっている。測定回数が少なくなっているのは、測定結果により頻度が多くなっても問題がないということだと思うが、その推移がわかるように「見える化」を図ってほしい。地球温暖化について、昔の話をしているような気がする。IPCCの第5次報告書では、今世紀地球の温暖化は止まらないとなっている。CO<sub>2</sub>の発生を減らしても温度上昇が避けられないとなっている。温度上昇を前提とした環境に対する考え方も必要ではないか。農業では生産する作物を変えていく事態も考えられるので、それにどのように対応していくのかということを入れておかないといけないのではないか。温度上昇は避けられないので、それに対してどう対応していくかということを考えなければいけない時期になってくるので、そのあたりも考えてほしい。資料編のデータについては、ばらつきを含んだ折れ線グラフのような形で、経時変化がわかるようにしておく、放射能の問題等でもどこかから変なものが入ってきたらその変化がわかるような仕組みを入れておいてもらえると、関心のある人が見ればわかると思う。ぜひ経時変化がわかるようにしてほしい。

【部長】 PDCAについては、細かなところで決めないと実際に回っているかというのがぼやけてしまうので、実施計画ではなく基本計画というところでどのくらい反映できるかというのは検討させていただき、目標設定ができ、回っていくようなものが設定できればそのような形で設定したい。グラフ化については、最新の値が出ていることがベストなので、この時期までにグラフ化した結果をこの計画にそのまま反映させるかについては、10年間の計画なので・・・。

【委員】 例えば「見える化」を推進するということが入っていることが必要だということ。

【部長】 実際の計画の中にグラフを掲載するという事ではないのですね。そのような形で計画に反映することはできる。

【委員】 PDCAについても、PDCAを回せる計画をつくり、PDCAを回していくと謳われていれば良いと思う。

【部長】 そのような形は可能だと思う。地球温暖化、IPCC等の問題については、委員の言うように地球温暖化は止まらないからといって、努力せずにおけばそれが早く来るか、あるいはゆっくり来るかでは大きな違いがある。できるだけ努力すればそれだけ上昇率は下がるので、地球温暖化防止に対する取り組み自体は計画の中に盛り込んでいきたいと考えている。

【委員】 温暖化防止対策について努力するのはもっともな話であるが、努力しても変化

は襲ってくるということが想定されているので、それに対してどのように備えておくのかということがこの基本計画の中にあるべきだと思う。それに対してどのような考え方でどうしようということがないと、実際にそのような状況になったときに対応できないのではないかと。想定しておく必要はある。

【部長】 中身を精査し、10年間を目標とした計画なので、10年間の中にそういった内容の取組みを入れられるか研究させていただきたい。

【委員】 想定以上の豪雨がきたらどうなるのだろう、今まで経験したことのないような風、竜巻等の自然災害が極端化する傾向もみられている。食料・作物や防災もそうだが、変化してくることを頭に入れた環境問題としてみてほしい。

【部長】 できる範囲で研究していきたい。

【委員】 市としてこれだけは10年の間に絶対やるという意思表示を文書化できればよいが難しいので、例えば字を大きくする、太くする等、インパクトのある表現で強い意志を表すようにしてはどうか。レイアウト等あると思うが、できるかどうか検討してほしい。

【課長】 ただいまの意見、検討していきたい。

【委員】 計画の構成は良いと思う。目標3「安心して暮らせる環境をつくります」の中の「公害のない安全なまちにします」公害監視の継続実施について、中野市はイタイタイ病も水俣病もないので、放射性廃棄物によって主要産業が壊滅するかもしれないという危険性があるので、放射性汚染物質の監視という項目を入れるだけで、今後が違ってくると思う。中野市が水銀、有機水銀、カドミウムで脅かされる心配はないが、放射性廃棄物による風評被害によって農業・果樹が壊滅する可能性がある。空間線量ではなく、局地的に持ち込まれたものはその場で検査しなければ見つからない。行政の目をかいくぐって低レベルの放射性廃棄物がどんどん持ち込まれると、中野市の産業の根幹にかかわることになるので、一行入るだけでこれからの利用につながる。中野市独特で緊急の場合によっては恐ろしい結果になる事柄なので、ぜひ入れてほしい。

【課長】 意見として賜りたいと思います。

【会長】 2点目のめざす環境像について質問・意見等をお願いします。A案、B案で若干の相違があるが、これについての意見等あればお願いします。

【委員】 A案とB案の違いがよくわからないが、自分が何をしようかというのがわかった方が良いので、「地球温暖化対策の推進」といわれても、私自身が何をすれば良いのかわかるのであれば、A案の「地球にやさしいライフスタイルへ転換しよう」、「環境にやさしいエネルギー利用をすすめよう」という言葉が入っていた方が、私はわかりやすいと思う。

【主査】 事務局としてもA案を進めたいと考えている。今の意見も参考にしながら策定を進めていきます。

【会長】 3点目の施策の体系について意見・質問等をお願いします。現計画では「もったいない」の心を大切にしますで、「環境に配慮した農林業をすすめます」の中で、

「環境にやさしい農業の推進」、「地産地消の推進」、「適切な森林の手入れと活用」との取組方針があった。基幹産業である農業を外してはならないと思うが、A案、B案になるとその言葉がどこかに吸収されてしまっている。この部分を強調するように加えるか、ニュアンスを取り入れてほしい。

【主査】 A案、B案とも自然環境の分野にあり、A案では、「農地・森林を保全し自然豊かな環境を確保しよう」との取組方針の中で、「農地の保全・管理」という形であげているが、今の意見については検討し、反映できるところは反映していきたいと思う。

【会長】 保全・管理に含めてしまえばそうなるが、もう少しわかりやすく、農業を推進するという言葉・ニュアンスがあれば、一層良いと思うので、検討をお願いします。

【委員】 A案の体系はよいが、先ほど説明があった省エネルギー・省資源の推進という言葉が入っているが、参考資料の中で、省エネ・省資源の取組みが浸透してきているとの説明があったが、アンケートでは、太陽光発電等とても少ない。それが浸透してきているとの現状把握なのか。

【主査】 市民アンケート10ページで、「日常生活の中で環境にやさしい取組みをしていますか」の設問に対し、「節電・節水をしている」の項目で、いつも実行、時々実行が約85%となっていることなどから省エネ・省資源の取組みが浸透してきているものと思われる。

【委員】 アンケートの回収率の問題で、回答した34%の人はある程度関心のある人なので、私としては、節電、節水、ごみのポイ捨て等、とても浸透してきているとは思えない。浸透してきているからやらないということではないと思うが、より推進してほしい。

【課長】 市でも太陽光発電設備の設置について補助制度がある。数年前から実施しているが、ある程度充足してきているのかなと思っている。設置の依頼件数は減少してきている。昨年は補助申込みが70件ほどで、今年は現在まで50件弱となっている。一昨年は100件を超える申込みがあったので、右肩下がりで補助件数は減少している。施設の設置費用も下がってきている。

【委員】 太陽光発電施設のニーズが充足されてきているのではとの認識は、若干違うのではないか。ひとつは固定価格買取制度の金額が下がるという話があり、設置してもあまり効果が出ないのではないかと考える人が増えているということで、これと機器の価格が下がっているというのは、行って来いの関係になる。実際にはソーラーを設置すると、その家の省エネ性が上がる。設置している家が増えてきているが、設置していない家のほうが圧倒的に多い。設置することで省エネ性が上がるということを知ってもらえていない。得であり、環境にも良いということをうまく伝えていく必要がある。潜在的な需要が減っているわけではなく、関心の無い人にどう進めていくかを考えていく必要があるのではないか。補助制度はぜひ残してほしい。

【委員】 避難場所に指定されている施設に太陽光発電を設置し、いつでも何があっても

避難所として使えるような形にしてほしい。そうすれば省エネ度も高くなり、確実に電気が使える避難場所となる。市内各地の公的な場所では1か所も設置されていない。

【課長】 昨年開園した保育園には設置したところがございますが、また、意見として賜りたいと思います。

【委員】 保育園に避難する人は少ないと思う。10年計画なのでできれば学校、公民館などにあらかじめ設置するようにすれば、避難場所としての機能ができる。その場所に行けば確実に食糧、電気があるようにすれば、安心・安全でこれほど心強いものはない。避難場所に太陽光発電施設が1か所も設置されていないというのは寂しい。10年計画であれば、太陽光発電プラス避難場所も考えた対応をお願いしたい。

【部長】 災害対応は防災計画の中で中心となって進めたいと考えているが、重要な視点なので関係部署につないで、対応を検討していきたい。

【会長】 委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。事務局においては審議会の意見を十分に検討して、今後の環境基本計画の策定作業を進めてほしいと思います。そのようなことでよいか、委員の皆様に了解していただきたいが、よろしいでしょうか。

【各委員】 一了承一

【会長】 ありがとうございます。事務局においては、十分意見を尊重し、今後の策定作業を進めていただきたい。

以上をもって、議事は終了とします。ご協力ありがとうございました。

(4) その他

(5) 閉会